安全運転教育記録

営業所名	所長	運行管理者
本牧営業所	有間	山本

実施日	2026 年 6 月 24 日 ～ 24 日
実施場所	本牧営業所　事務所

教育指導の内容

○ 国土交通省告示第1366号にもとづく安全運転教育

3、トラックの構造上の特性
トラックの特性に合わせた運転
（事業用トラックドライバー研修テキスト⑤P39～P52）

1、車高と運転
2、車長と運転
3、車幅と運転　　＊乗用車と同じ感覚で運転してはならない
4、死角と運転
5、スピードと運転

○ 乗務前点呼時に睡眠不足の確認が追加されました
○ 梅雨の時期の過ごし方について
1、梅雨の時期に起こりやすい体調の変化
2、細菌性の食中毒について

○ 指示徹底事項（年間）
1、飲酒運転・酒気帯び運転の根絶
2、4時間以上の連続運転禁止・休憩時間の確保
3、デジタコの正確な操作の徹底

実施対象者

別紙：受講者一覧

株式会社共生物流

保管期間 ： 3年間

2026年度　安全運転教育受講者一覧

営業所名:　本牧営業所

6月度　実施日　24 日 ～ 24 日

	氏名	サイン(自署)	＊実施日	時間 開始 ～ 終了	実施者	点数
1	福島　雄三	福島雄三	24 日	6 : 30 ～ 6 : 40	山本	100
2	佐々木　啓二	佐々木啓二	24 日	12 : 10 ～ 12 : 25	山本	90
3	市川　誠	市川 誠	24 日	10 : 00 ～ 10 : 10	山本	90
4	武藤　健司	武藤健司	24 日	8 : 50 ～ 9 : 00	山本	90
5			日	: ～ :		
6			日	: ～ :		
7			日	: ～ :		
8			日	: ～ :		
9			日	: ～ :		
10			日	: ～ :		
11			日	: ～ :		
12			日	: ～ :		
13			日	: ～ :		
14			日	: ～ :		
15			日	: ～ :		
16			日	: ～ :		
17			日	: ～ :		
18			日	: ～ :		
19			日	: ～ :		
20			日	: ～ :		

1）教育実施時に使用した資料等を添付して保管すること。
2）評価は、理解度テスト70点以上を良とし、70点未満は個別指導を行う

株式会社共生物流
保管期間：3年間

（国土交通省告示1366号）

2026年 6月 24 日

営業所名　本牧営業所

氏名 福島雅之

100

安全運転教育　理解度テスト（3）

次の設問について、正しいと思うものについては○を、誤っていると思うものについては×を、解答欄に記入すること。　（10点×10問）

設問	問　題	解　答
1	トラックは、視点が高くなることで車間距離を長く感じ、知らず知らずのうちに車間距離をつめ、追突事故を起こしやすい。	○
2	細菌性の食中毒は、細菌が高温多湿を好むので6月の梅雨時期から、9月の残暑が終わるまでが要注意期間です。	○
3	トラックは、車長が長いため右左折時に内輪差が大きくなり、歩行者・自転車・二輪車などを巻き込みやすい。	○
4	ホームから車両を切り離す際は、隣接する車両との接触を避けるため、内輪差の特性のみに気をつければよい。	×
5	バックアイカメラが装備されていれば死角はなくなるので、一旦下車して後方の安全を目視で確認する必要はない。	×
6	下り坂ではスピードが出やすいため、エンジンブレーキや排気ブレーキを活用してスピードをコントロールすることが必要である。	○
7	カーブでの速度超過は、対向車線へのはみ出しや路外逸脱、横転などの原因となるため、カーブの途中で十分な減速を行うことが大切である。	×
8	狭い道で対向車とすれ違う場合であっても、そのまま離合できると見込めるときは、一時停止して対向車の通過を待つ必要はない。	×
9	オーバーハングによる車体後部の膨らみを抑えるためには、できるだけ素早くハンドルを切らなければならない。	×
10	心身の調子を崩さない為には、いつもより身体が疲れていることを自覚して、十分な睡眠や休息をとることが大事。	○

感　想　文

教育を受けて「安全運転」について感じたこと、これから心掛けることを記入してください。

始めて行く納品場は 高さの確認をするため 下車して 安全か確認して納品を行

（国土交通省告示1366号）

2026年 6月 24日

営業所名 本牧営業所

氏名 佐々木啓二

90

安全運転教育　理解度テスト（3）

次の設問について、正しいと思うものについては○を、誤っていると思うものについては×を、解答欄に記入すること。（10点×10問）

設問	問題	解答
1	トラックは、視点が高くなることで車間距離を長く感じ、知らず知らずのうちに車間距離をつめ、追突事故を起こしやすい。	○
2	細菌性の食中毒は、細菌が高温多湿を好むので6月の梅雨時期から、9月の残暑が終わるまでが要注意期間です。	○
3	トラックは、車長が長いため右左折時に内輪差が大きくなり、歩行者・自転車・二輪車などを巻き込みやすい。	○
4	ホームから車両を切り離す際は、隣接する車両との接触を避けるため、内輪差の特性のみに気をつければよい。	×
5	バックアイカメラが装備されていれば死角はなくなるので、一旦下車して後方の安全を目視で確認する必要はない。	×
6	下り坂ではスピードが出やすいため、エンジンブレーキや排気ブレーキを活用してスピードをコントロールすることが必要である。	○
7	カーブでの速度超過は、対向車線へのはみ出しや路外逸脱、横転などの原因となるため、カーブの途中で十分な減速を行うことが大切である。	○ ✓
8	狭い道で対向車とすれ違う場合であっても、そのまま離合できると見込めるときは、一時停止して対向車の通過を待つ必要はない。	×
9	オーバーハングによる車体後部の膨らみを抑えるためには、できるだけ素早くハンドルを切らなければならない。	×
10	心身の調子を崩さない為には、いつもより身体が疲れていることを自覚して、十分な睡眠や休息をとることが大事。	○

感　想　文

教育を受けて「安全運転」について感じたこと、これから心掛けることを記入してください。

安全運転を心掛ける

（国土交通省告示1366号）

2026年 6月 24 日

営業所名 本牧営業所

氏 名 市川 誠

90

安全運転教育　理解度テスト（3）

次の設問について、正しいと思うものについては○を、誤っていると思うものについては×を、解答欄に記入すること。（10点×10問）

設問	問 題	解 答
1	トラックは、視点が高くなることで車間距離を長く感じ、知らず知らずのうちに車間距離をつめ、追突事故を起こしやすい。	○
2	細菌性の食中毒は、細菌が高温多湿を好むので6月の梅雨時期から、9月の残暑が終わるまでが要注意期間です。	○
3	トラックは、車長が長いため右左折時に内輪差が大きくなり、歩行者・自転車・二輪車などを巻き込みやすい。	○
4	ホームから車両を切り離す際は、隣接する車両との接触を避けるため、内輪差の特性のみに気をつければよい。	×
5	バックアイカメラが装備されていれば死角はなくなるので、一旦下車して後方の安全を目視で確認する必要はない。	×
6	下り坂ではスピードが出やすいため、エンジンブレーキや排気ブレーキを活用してスピードをコントロールすることが必要である。	○
7	カーブでの速度超過は、対向車線へのはみ出しや路外逸脱、横転などの原因となるため、カーブの途中で十分な減速を行うことが大切である。	○ ✓
8	狭い道で対向車とすれ違う場合であっても、そのまま離合できると見込めるときは、一時停止して対向車の通過を待つ必要はない。	×
9	オーバーハングによる車体後部の膨らみを抑えるためには、できるだけ素早くハンドルを切らなければならない。	×
10	心身の調子を崩さない為には、いつもより身体が疲れていることを自覚して、十分な睡眠や休息をとることが大事。	○

感　想　文

教育を受けて「安全運転」について感じたこと、これから心掛けることを記入してください。

安全運転に務める。

（国土交通省告示1366号）

2026年 6月 24 日

営業所名 本牧営業所

氏 名 武藤 健司

90

安全運転教育　理解度テスト（3）

次の設問について、正しいと思うものについては○を、誤っていると思うものについては×を、解答欄に記入すること。（10点×10問）

設問	問 題	解 答
1	トラックは、視点が高くなることで車間距離を長く感じ、知らず知らずのうちに車間距離をつめ、追突事故を起こしやすい。	○
2	細菌性の食中毒は、細菌が高温多湿を好むので6月の梅雨時期から、9月の残暑が終わるまでが要注意期間です。	○
3	トラックは、車長が長いため右左折時に内輪差が大きくなり、歩行者・自転車・二輪車などを巻き込みやすい。	○
4	ホームから車両を切り離す際は、隣接する車両との接触を避けるため、内輪差の特性のみに気をつければよい。	×
5	バックアイカメラが装備されていれば死角はなくなるので、一旦下車して後方の安全を目視で確認する必要はない。	×
6	下り坂ではスピードが出やすいため、エンジンブレーキや排気ブレーキを活用してスピードをコントロールすることが必要である。	○
7	カーブでの速度超過は、対向車線へのはみ出しや路外逸脱、横転などの原因となるため、カーブの途中で十分な減速を行うことが大切である。	×
8	狭い道で対向車とすれ違う場合であっても、そのまま離合できると見込めるときは、一時停止して対向車の通過を待つ必要はない。	○ ✓
9	オーバーハングによる車体後部の膨らみを抑えるためには、できるだけ素早くハンドルを切らなければならない。	×
10	心身の調子を崩さない為には、いつもより身体が疲れていることを自覚して、十分な睡眠や休息をとることが大事。	○

感　想　文

教育を受けて「安全運転」について感じたこと、これから心掛けることを記入してください。

安全運転を心がける

（国土交通省告示1366号）

2026年　6月　　日

営業所名　　本牧営業所

氏　名

安全運転教育　理解度テスト（3）

次の設問について、正しいと思うものについては○を、誤っていると思うものについては×を、解答欄に記入すること。　（10点×10問）

設問	問　題	解　答
1	トラックは、視点が高くなることで車間距離を長く感じ、知らず知らずのうちに車間距離をつめ、追突事故を起こしやすい。	○
2	細菌性の食中毒は、細菌が高温多湿を好むので6月の梅雨時期から、9月の残暑が終わるまでが要注意期間です。	○
3	トラックは、車長が長いため右左折時に内輪差が大きくなり、歩行者・自転車・二輪車などを巻き込みやすい。	○
4	ホームから車両を切り離す際は、隣接する車両との接触を避けるため、内輪差の特性のみに気をつければよい。（オーバーハングも合わせて、左右後方の間隔を確認すること。）	×
5	バックアイカメラが装備されていれば死角はなくなるので、一旦下車して後方の安全を目視で確認する必要はない。（カメラのみでは、上方の安全は確認できない。）	×
6	下り坂ではスピードが出やすいため、エンジンブレーキや排気ブレーキを活用してスピードをコントロールすることが必要である。	○
7	カーブでの速度超過は、対向車線へのはみ出しや路外逸脱、横転などの原因となるため、カーブの途中で十分な減速を行うことが大切である。（カーブの手前でしっかりと減速すること。）	×
8	狭い道で対向車とすれ違う場合であっても、そのまま離合できると見込めるときは、一時停止して対向車の通過を待つ必要はない。（離合する際は積極的に止まって、対向車に進路を譲ること。）	×
9	オーバーハングによる車体後部の膨らみを抑えるためには、できるだけ素早くハンドルを切らなければならない。（できるだけ緩やかにハンドルを切れば最小限に抑えることができる。）	×
10	心身の調子を崩さない為には、いつもより身体が疲れていることを自覚して、十分な睡眠や休息をとることが大事。	○

感　想　文

教育を受けて「安全運転」について感じたこと、これから心掛けることを記入してください。